

# 行政報告

市議会6月定例会が6月2日に招集され、福原市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお知らせします。

今回は、福原市長が就任して初めての定例議会であったため、市長が所信を表明し、併せて市議会議員や市民に市政に対する協力をお願いしました。



## 所信表明

「ものづくりの力」と「物語を作る力」

来る人口、いわゆる「交流人口」の拡大をいかにして図っていくか、あらゆる政策の根本はこの一点に尽きると考えています。

今、政府は、円安を誘導し、日本製品の輸出の拡大と海外からの誘客を増加させています。新しい大館は、この経済政策を上手に活用します。メイド・イン・大館の製品や食材、そしてサービスの輸出と多くのお客様にお越しいただける大館づくりのため、「ものづくりの力」と「物語を作る力」、この2つの力を整えます。

## 大館に築きたい5つの柱

### 1「匠のまち大館」

技術力を持つ地元企業や地域資源の磨き上げを推進するために、国内トップクラスの企業や大学などと連携して、新しいサービスや製品を開発する力の向上を図ります。

また、中小企業や小規模事業者へ積極的な支援を行い、設備投資や販路拡大などの取り組みを応援します。

更に、起業の支援をすることで産業の新陳代謝とベンチャー加速化を進めながら、若い世代への技術継承と後継者育成の仕組みづくりを構築します。

### 2「連携のまち大館」

大館最大の輸出産業は農業だと考えます。農林業と商工業の連携を進め、世界を見据えた販路拡大を目指します。安心して農業に打ち込める環境づくりのため、農業インフラへの投資などにより、農家の所得向上を図ります。

また、里山エネルギーや再生可能エネルギーの導入を推進し、新エネルギー先端都市を目指します。

### 3「にぎわいのまち大館」

大館の魅力の対外発信力を強化するため、産官学の連携を推進して観光資

源を磨き上げます。「歴史まちづくり法」を最大限活用して、まちづくりや観光拠点の整備を進めます。

また、全国規模の大会を積極的に誘致します。

### 4「ひとづくりのまち大館」

スポーツや学びを通じ、年齢に関係なく、世代を超えた、意欲ある市民の暮らしの質を上げていきます。

また、人材養成プログラムの策定や大学奨学金事業を通して、郷土の発展に貢献する人材育成を進めます。

### 5「安心のまち大館」

市立総合病院を頂点に、医療・介護・福祉の連携を更に強化します。

また、自然災害に対応する防災・減災力を高めるため、より実践的な防災訓練を行います。

## 大館市総合計画及び総合戦略策定本部の設置

平成18年度にスタートした「新大館市総合計画」も最終年度となり、今年度は、28年度からの次期総合計画づくりに着手します。次期総合計画では、現計画の成果、課題などを総括、検証したうえで、「匠のまち」「連携のまち」「にぎわいのまち」「ひとづくりのまち」「安心のまち」の実現を最重要課題と位置付け、そのための施策を盛り込みます。また、まち・ひと・しごと創生法の施行により、全国の自治体で地方創生に向けた取り組みが進められています。市でも国の長期ビジョンや総合戦

略などを勘案しながら、大館市版の総合戦略を策定します。

次期総合計画と総合戦略は、人口動態の分析、人口推計などに基づく人口減少対策などを柱としながら、目指すべき方向性を統一し、一体的に策定作業を進めるため、5月26日に策定本部を立ち上げました。

今後は、経済・産業界、教育・報道機関など様々な分野から幅広く御意見を伺い、市民の皆さんが安心して暮らし、いけるよう、実効性のある総合計画、総合戦略の策定に努めます。

## 東京オリンピック・パラリンピックメダルへの回収金属活用提案

5月15日、大館、一関、八戸の3市は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会で授与されるメダルへの回収金属活用について提案活動を行っていくことで合意しました。

メダルに小型家電から回収した金属を使用することで、日本の環境に対する意識の高さとリサイクル技術を世界へ発信し、地球環境にやさしい社会を作るために3市一体となつて提案します。3市では今後、オリンピック組織委員会や関係省庁に対し、連携して提案活動を行っていく予定です。

